

パラグアイ経済トピックス（2023年5月）

1 パラグアイ政府がeモビリティのマスタープランを発表

5月18日、パラグアイの都市公共交通と物流に関するeモビリティ・マスタープランが発表された。同プランにより、すべての官民セクターが協調して、eモビリティへの包括的な移行に向けた作業プロセスを推進することが可能になる。

同プランの実施により、パラグアイは2040年までに、公共バスの100%、タクシーの50%、5つの主要都市における電動自転車の導入により、ラ米地域におけるeモビリティへの移行のベンチマークとしての地位を確立すると推定されている。また、同プランの実施には、貨物トラック、配送バンの50%を電気自動車に、配送用バイクの100%を電気式に移行することも含まれている。

同プランは、パラグアイにおける都市公共交通と物流の電化への移行に向けた、短期・中期・長期の一般的・具体的なガイドラインを定めたものであり、以下の内容からなる。

(1) パラグアイの現状：社会人口統計学的背景、都市公共交通と物流の現状

(2) eモビリティの基礎：eモビリティ導入のために取るべき主な行動とその法的枠組

(3) パラグアイにおけるeモビリティの指針：都市公共交通と物流の電動化に向けた行動実施のための枠組と戦略軸

(4) 電動公共交通と電動物流交通：eモビリティの観点から両交通で実施されるプロジェクト、行動、対策

(5) 短期（2025年）、中期（2030年）、長期（2040年）において、提案された対策を実施した場合の環境への影響

2 パラグアイ、大豆生産国6位の地位を維持

米国農務省は、パラグアイを世界で6番目に大きな大豆生産国としてランク付けた。パラグアイの2022-2023年シーズンの大豆生産量は880万トン。世界の主な大豆生産国は、ブラジルが1億5,500万トン、米国が1億1,640万トン、アルゼンチンが2,700万トン、中国が2,020万トン、インドが1,200万トンと続く。

輸出国の中では、パラグアイが570万トンの出荷見通しで第3位にランクされている。ブラジルが9,300万トンの見通しでランキングをリードし、米国が5,480万トンの見通しで続いている。

3 アルゼンチン農家、パラグアイへの投資拡大見通し

パラグアイの予測可能性の向上と経済見通しの良さは、地域、特にアルゼンチンから多くの投資家を惹きつけている。こうした中、アルゼンチンの農家たちは、パラグアイのチャコを含むパラグアイへの投資を選択している。また、気候、植生、土壌の点でもアルゼンチンとの類似点があり、税制上の利点や為替レートの安定性もあげられる。

4 新バイオディーゼルプラント Cremer Oleo は、約600人の直接雇用を創出見込み

ドイツ系企業クレメル・オレオ・パラグアイ社の産業用バイオディーゼルおよび再生可能エネルギープラントが3,000万米ドルの投資後セントラル県ビジェタ市にて竣工した。同施設では今後約600人の直接雇用が創出される見込み。